

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 53

今月のテーマ 夫婦で作る協定書？(将来展望)

前号では現在の生活状況と目先の問題に焦点を当てたが、今回は将来に予想される出来事や、備えなければならない問題について考えてみよう。

新婚さんにとっては、現在の生活設計もこれからという中であって、それどころではないと思われるかもしれない。先が見えてこそ今の生活のあり方が見えてくるし、今しなければならぬ課題も明確になってくる。要するに、将来を展望し、それに沿った生活設計を立てることが重要なのである。

食生活や住まいに対する考え方、子供の人数やマイカー購入に対する考え方、職業に対する考え方などなど、夫婦それぞれの育ち方や価値観は違って当たり前だ。だからこそ、事前に調整(協定)をしておかなければならない。但し、何度も言うようだが、それぞれの違う生き方の中で形成された価値観は、意見の食い違いが生じることもあるし、むしろあって当然だ。完璧・完全などありえないし、考え方や想いの違いは、ある意味では個性でもあるから、押し付けをしてはならない。お互いの人格を尊重しつつ、一緒に将来を創造し展望してもらいたいものだ。

そうして見えた2人の目標や将来像からは、今の生き方やお金の使い方、そして貯蓄の目標なども見えてくる。また、出来た約束ごと(協定)は、同じ方向を目指す二人の絆を深めることにもなるだろう。中には型にはめられた拘束感を持たれる方もいるかもしれないが、そこは断じて違うと言い切りたい。描かれた将来展望は、進むべき道が見えることであり、安心感にもつながる。そして、一旦決めた協定は決して変えてならない訳ではないし、むしろ時々には修正・変更する必要がある。脱線しない程度で寄り道があっても良いと思う。財布の紐も、締めすぎてほどこなくとも困るし、緩みすぎてもいけない。

さて今月は、将来の創造・展望をする上で具体的に何をどうするのか、決して避けては通れないいくつかの問題を題材に、一緒に考えてみよう。



● 将来を展望し「ライフデザイン」を描く
では、将来を展望するということは、何をどう考えれば良いのだろうか。カタカナ語で恐縮ではあるが、あえて「ライフデザイン」という言葉を使わせていただきたい。一言で言ってしまうと、それは人生を計画するということだ。ライフプラン(生活設計)という言葉は比較的に使われるようになってはいるが、「ライフデザイン」という言葉に馴染みのある方は少ないかもしれない。こんがらがってしまいそうだが、ライフプラン(生活設計)は夢や目標を達成するために作成するものだが、そのためには夢や目標をはっきりさせなければ、ライフプランそのものが始まらない。要するに生活設計(ライフプラン)を立てるためには、それに先立って、人生計画(ライフデザイン)を描く必要がある。

結婚したカップルが、中長期的な視点で「2人の人生をどう過ごしたいのか」を話し合うことから始まる。例を挙げれば、「趣味」、「旅行」、「資格取得・習い事」、「マイホームの取得」、「出産・育児」、「子供の教育」、「マイカー」、「老後」などなど、これらのことを話し合うことがどれだけ楽しいことか…。そして、話し合った夢や目標をデザインとして書き出し、それを実現させるためにライフプランを作成するのである。



「生懸命 つぶやきます」
齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

～ 今月の無料相談会・重点テーマ ～

生命保険の賢い加入方法!!

- 加入している保険が本当に良いのか分らない方!
- 生命保険の更新時期が近い方!
- 万一の場合の生活費が心配な方!
- お子様の教育費が心配な方!

相談料は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間: 9:30~19:00 ● 定休日: 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

詳細は ホームページでもご覧いただけます。

最低限のライフプラン

前述した様に、デザインしたいものはたくさんあるが、夫婦として話し合い、協定していただきたい項目を「人生の4大資金」として次に挙げてみたので参考にさせていただきたい。

- ① 生命保険への加入
- ② 子ども的人数および育児と教育資金の準備について
- ③ マイホーム取得、親との同居など、住まいの計画
- ④ やがて訪れる老後に対する考え方と資金準備

これらは、何れも高額な資金を要することから、早めの計画と準備について話し合っていたいただきたい。

この4つは、殆どの夫婦に共通するものであるし、避けて通れない問題でもある。これら4項目は必要とされる資金の中でも、特に高額の資金を必要とすることから「人生の4大資金」ともいえる。

4大資金の考え方

【①生命保険】

一口に生命保険と言っても、その目的はそれぞれの年齢・性別・家族構成・職業・収入、等々で必要性は大きく異なる。保険に加入すること自体が目的でないことは勿論であるし、保険の販売員の勧めや付き合いで加入するなどは論外だ。

しかしながら、個別の必要性が考慮されないうまま、また内容も理解されないまま、勧められるままの加入がなんと多いことだろうか…。生命保険の主な加入目的は次のようなものが挙げられるが、これらを検討する際に重要なのは、公的医療保険制度、公的年金制度（国民年金・厚生年金・遺族年金）の理解無くしてはありえない。生命保険はマイホームの次に高

い買い物といわれるが、無駄な保険料を負担しないためにもファイナンシャルプランナーなどの専門家に、知識や経験に基づいたアドバイスを受けたらいいのだ。

〈主な加入目的〉

- ① 万が一の（死亡・高度障害）保障
- ② 病気やケガによる入院や手術 先進医療の保障
- ③ 介護や就業不能時の保障
- ④ 子どもの教育資金の準備
- ⑤ 貯蓄・資産運用
- ⑥ 老後の生活資金の準備

【②子ども的人数および育児と教育資金の準備】

結婚後の生活設計については、子ども的人数と進路により、資金準備の面で大きく異なってくる。秋田県の進学率は、全国的に見るとかなり低い位置にあるが、今後確実に高くなっていくであろう。勤勉な県民性と、高い学力を持ちながら、経済的な問題で進学を諦めて欲しくないものだ。もちろん進学することが全てではないが、子どもが望む進路であれば何とか実現させたいものだ。夫婦で子育てを話し合い、そこに掛かる費用の準備を、少しでも早めに始めたいものだ。

秋田県民よ、子どもをたくさん作って、秋田県の少子高齢化の名を返上し、優秀な子供たちを世に送り出し、「大いなる秋田」を目指そうではないか…。

【③住まいの計画】

秋田県の持ち家比率は富山県を抜いて全国第一位だ。また核家族化が進む中であって、秋田県の多世代同居住率は高い。住まいの計画は何もマイホームの新築に限った訳ではなく、親との同居も視野に入れてもらいたいものだ。

同居する中で「親から学び子に伝える」、そ

して「子が親の老後を支える」、という人間社会ならではの家族との関わりは、知恵や文化の伝承をも支えてきたことは間違いない。

少子高齢化の中であって、今後は住宅が余ってくることも予想される。中古住宅の取得なども視野に入れた、柔軟な話し合いを持って欲しいものだ。結果、住宅購入を予定するのであれば、こちらも早めの計画的な準備を始めた方がいいのである。

【④老後の生活設計】

一頃、人生50年と言われたが、今や人生100年を意識しなければならなくなった。しかしながら、公的年金制度は少子高齢化の中で、年金の支給時期を引き上げなければならぬ事態に陥っている。現在は65歳からであるが、さらに引き上がる気配さえ感じる今日この頃である。

核家族化の進行の中、老後の経済を子どもに依存するには厳しい状況であるし、仮に同居していたとしても、経済的な部分は自立すべきと考えねばならない。新婚さんには、いま結婚したばかりなのに、老後の準備とは何事だと叱られそうだが、いつか行く道であることは間違いない。今すぐとは言わないが、頭の片隅に置いて欲しい。中婚さんや旧婚さんは早目の準備を…。

時間に追われ、今月の原稿は締め切りギリギリの状態、頭の中は来月号のことまで回っていない。来月号は来月になってから考えよう。乞うご期待！